

動脈血サンプラー safe PICO

再使用禁止

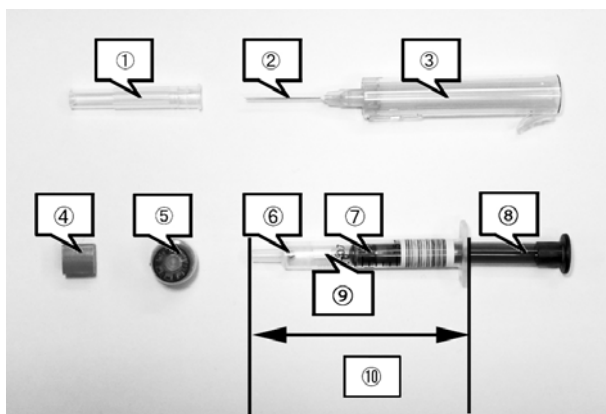
【禁忌・禁止】

- ・再使用禁止
- ・人工透析装置や人工心肺装置等の陰圧回路内での穿刺による採血は行わないこと [回路内に空気を吸入するため]
- ・注射には使用しないこと

【形状・構造及び原理等】

＜構成部品＞

- ①針保護筒
- **②針管 (G×mm) : 22×25、22×32、23×25、23×32、および針なし (③があるタイプの製品は③と一体化している)
- ③セーフガード
- ④針プラグ
- ⑤チップキャップ
- **⑥ミキシングボール
- **⑦吸子のハウジング : 吸子の先端と白色のフィルターとの間の空洞
- ⑧吸子
- **⑨ヘパリンディスク : 電解質バランスヘパリン含有
- ⑩外筒



＜シリンジにセーフガードを取り付けた状態＞



**＜型式による構成部品の違い＞

型式(品番)	②針管	③セーフガード	④針プラグ
956-610	-	-	-
956-613	○	-	○
956-614	○	○	-
956-616	○	○	-
956-635	○	○	-

1. 本品には針無しタイプと針付きタイプがある。
2. 針付きタイプにはセーフガードが装備されている。
3. 針部はセーフガードと一体となっており、針部のみを取り外すことはできない。
4. 針の材質：ステンレススチール

**5. 滅菌：エチレンオキシドガス滅菌済み

【使用目的、効能又は効果】

本器具は、血液ガス分析等の検査機器に使用する血液サンプルを、橈骨動脈、大腿動脈や動脈ライン等から採血する器具である。

採血量：0.7 mL～1.5 mL ※注

- ** (※注：オートインレット使用時は、1.0 mL 以上必要。また採血量は使用する血液ガス分析装置等の検査機器の添付文書等に従ってください。)
ヘパリン含有量：60 IU

【操作方法又は使用方法等】

＜針付きの場合＞

- **1. あらかじめ手袋を着用し、滅菌包装から本品を取り出す。
 - **2. 採血前に穿刺部位を確認し、吸子の先端に必要な採血量の目盛りに合わせて。(fig.1)
 - **3. 針保護筒をねじらずに真直ぐ引いて外し、針が正しく取り付けられていることを使用前に確認する。(fig.2)
 - **4. 採血部を決めて消毒し、患者の腕をしっかりと固定した後針管を動脈に穿刺する。血液が動脈圧で外筒内に流入し、予め決めた量に達するまで待ち、吸子のハウジングにあるフィルター部分まで血液が満たされ自動採血が完了したことを確認して、患者から針を抜く。その後、直ちに穿刺部位を完全に止血すること。(fig.3)
 - **5. 針の取り外しは、セーフガードが付いている型式と付いていない型式では取り扱いが異なる
 - **①セーフガード付きの場合
 - **i 誤刺を防止するために、セーフガードのグリップを片手の親指で針の方向へカチッと音がするまで押してロックし、針部を覆う。(fig.4)
 - **ii 外筒のフランジ部分を片手に持ち、もう一方の手でセーフガードを回しながら外す。針部はセーフガードと一体になっているため、同時に外れる。(fig.5)
 - **iii 取り外したセーフガードは、針を格納したまま、専用の廃棄物容器に捨てる。
 - **②セーフガードが無い場合
 - **次のいずれかの方法で針を取り外す。
 - **i 針プラグを平坦な所に置いて針を刺し、鉗子など針をしっかりと挟めるものを使用して針を取る。
 - **ii 施設で決められた方法で針を取る。
 - 取り外した針は、専用の廃棄物容器に捨てる。
 - **6. チップキャップを筒先にしっかりと取り付け、1/4 回転させながらねじ込み、チップキャップ側を上に向けて外筒を軽く叩き、気泡を筒先の方に集める。(fig.6)
 - **7. チップキャップにガーゼ等を添え、吸子をゆっくりと押して外筒内の空気を排出する。この時、チップキャップのハウジング (プラスチック製の外枠) と内部のパッキンの間が血液で満たされていることを確認する。※白色のパッキンが血液を吸収し、赤色にそまる。(fig.7)
 - **8. ヘパリンディスクが十分に動くよう、外筒を上下左右に (縦に横に) 回転させ、血液とヘパリンを混和する。(fig.8)
 - **9. 速やかに血液ガス分析装置内へ導入する。この時、装置がチップキャップ対応であれば、チップキャップをはめたまま装置にセットする。非対応型装置であれば、チップキャップを外し、気泡の混入がないことを再確認して装置にセットする。(fig.9 非対応型装置の一例)
 - **10. 本品用オートインレット機能を有するチップキャップ対応型血液ガス分析装置を用いて測定を行う場合は、fig.10 のように装置にセットする。
- ※本品用オートインレット機能 (血液を攪拌し、吸引する機能) を有する血液ガス分析装置には磁石が内蔵されており、これを用いて測定する場合は、本品のミキシングボールと装置の間に磁力が発生し、採血した血液を自動的に攪拌することができる。

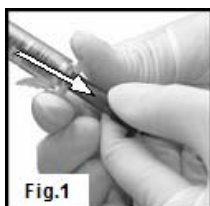
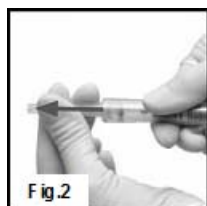
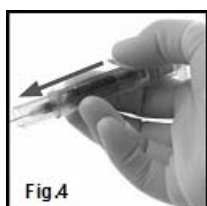
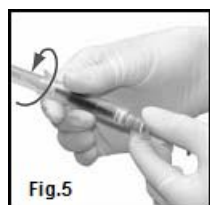
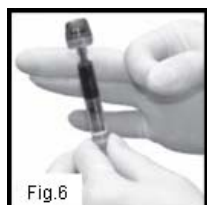
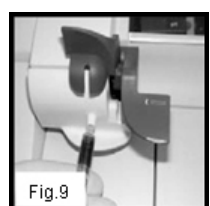
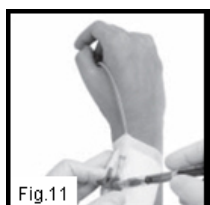
＜針無しの場合＞

- 1 採血前に穿刺部位を確認し、吸子の先端に必要な採血量の目盛りに合わせて。(fig.1)
- 2 動脈ラインがしっかりと固定されており、ライン内にクロット (凝血、以下省略) がないことを確認し、ライン

内の生理食塩水を完全に取り除いた後、本品を消毒された活栓に接続する。血液が動脈圧で外筒内に流入し、予め決めた量に達するまで待ち、吸子の先端にあるフィルター部分まで血液が満ちて自動採血が完了したことを確認し、活栓から本品を取り外す。（採血後の活栓の処理・取扱いはいずれの施設で決められた方法で行う。）

(fig.11)

※ 以降の操作方法是上記＜針付きの場合＞の6～10と同様。



** 使用方法に関連する使用上の注意

- ・包装又は製品が破損、汚損している場合は使用しないでください。
- ・本器具は滅菌されておりますので、使用直前に開封してください。
- ・針付きタイプについては、使用前に針がシリンジにしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・使用前にセーフガードが外筒にしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・採血及び検体を取り扱う際にはゴム手袋等を使用し、血液に直接触れないようにしてください。
- ・使用時には採血部位を消毒し、感染予防に努めてください。

- ・動脈ラインから採血する場合には、動脈採血用にデザインされている動脈ラインの活栓から採血してください。
- ** 動脈ライン内にクロットがあると、測定結果に影響が出るため、クロットがないことを確認してください。
- ** 動脈ラインから採血する前に、必ず、ライン内の生理食塩水を完全に取り除いてください。不十分だと、測定結果に影響が出ます。
- ・動脈ライン等との接続部からの漏れに注意して使用してください。
- ** 採血速度が速いと気泡の混入や溶血を起こすことがあります。
- ・針が付いたまま又はむき出しのまま、手渡したり、持ち運んだりしないでください。
- ・採血後、針保護筒を用いてのリキャップは絶対にしないでください。
- ・セーフガードのロック機能を外すと、針の事故または血液の漏れが起きる恐れがあるため、決して外さないでください。
- ・サンプルに気泡があるまま測定すると、結果に影響が出ます。
- ** 採血時にシリンジ先端に気泡が混入した場合は、チップキャップを取り付け後、速やかに排出してください。
- ** 採血後、チップキャップを取り付けるまでは、吸子は決して動かさないでください。血液が漏れる可能性があります。
- ・チップキャップ取り付け後、気泡を排出する際、決してシリンジを人に向けてしないでください。
- ・チップキャップ取り付け後、以下の場合、チップキャップ先端から血液が漏れ、本人もしくは周囲の人に血液が付着する可能性がありますので、ご注意ください。
- ** ①吸子を強く押し過ぎて吸子のハウジング（吸子の先端と白色のフィルターとの間の空洞）に空気が残留した場合
- ** ②検体を長時間放置した場合
- ** ③血液ガス分析装置で一度測定が行われた後
- ・一度採取した検体はヘパリン化されており、又、血管内に気泡が混入する可能性があるため、いかなる場合であっても患者へは戻さないでください。
- ・採血後、十分にヘパリンと血液が混和されないと、検体が凝固することがあります。本品用オートインレット機能を有する血液ガス分析装置を用いて測定を行う場合であっても、混和した後に装置にセットしてください。
- ・本品を血液ガス分析装置から外す時、血液が少し漏れることがありますのでご注意ください。
- ・使用後は、密閉可能な硬い素材の専用廃棄物容器に廃棄し、感染性廃棄物として処理してください。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

貯蔵・保管方法

水濡れに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

有効期間・使用の期限（耐用期間）

外箱及び個包装に記載。〔自己認証（当社データ）による〕

【包装】

100 本/箱

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

製造販売業者

ラジオメーター株式会社
東京都品川区北品川 4-7-35
電話番号：03-4331-3500

製造元企業名

ラジオメーターメディカル社
(RADIOMETER MEDICAL ApS)

製造元国名

** デンマーク 王